

## F-3 ファミリー・サイクルに対応する理論食料費

お茶の水女大家政 伊藤 秋子  
琉球大農 〇新垣都代子

1. われわれの日常生活のなかで、基礎的なものは食生活である。家族構成の変化によって食料費もまた変動する。さきに、伊藤・新垣は、第5次出産力調査を用いて、ファミリー・サイクルのモデルを作成したのでそれに対応する食料費の変動をみる。

2. 食料費の理論的カロリー単価を作成し、これを用いて年齢別、性別、1人1日当たりの食料費を算出する。この食料費をれわれの作成した昭和25年結婚コーホートの2子、3子、5子のモデルに適用する。(日本人口学会に報告した資料)

3. 1) 1カロリー当たり単価は、昭和40年の物価で、9.73銭である。これを昭和43年に換算すると11.3銭である。2) 昭和43年物価による食料費をモデルに適用すると、子供数、出生間隔により異なるが、最大となる時期、および金額はつぎのようである。

	父の年齢(オ)	食料費(円)	修正(円)
2子の場合	43・44	32,370	29,616
3子の場合	45・46	40,500	36,519
5子の場合	49	57,120	50,415

3) なお、蛋白質1g当たり単価を算出したが、これだけでは食料費を算出するには適当とはみられない。